

 **特集**

2 3

 **ESSAY**

「学び」は日々進化している 経営学部 豊田 寿行 准教授

4

 **人事報告**

着任挨拶

5

 **就職支援**

就職・進学先一覧

7

 **国際交流**


国際交流プログラム / 留学生支援

8

 **プロジェクト研究**

鳥取県における環境コミュニケーション

10

 **お知らせ**

PRコーナー / 主なスケジュール 2019年9月から2020年3月まで

12

海外留学を 経験した学生に インタビュー

して
みました!

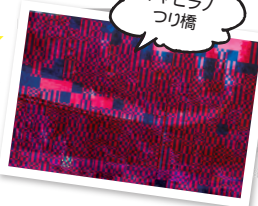
本学では、英語スキル、コミュニケーション能力を身に付けるため、英語を楽しく学ぶことができる"英語村"を開設しています。実際に英語圏の国にいるような感覚で、英語のみを使用し、楽しいチャット(会話)やアクティビティ(活動)をおこなっています。また、留学希望者には、留学に向けての英会話能力向上を支援しています。そんな英語村に通う学生の内、2019年に海外留学を経験した学生3名にインタビューをしました。



おきの しゅんや
沖野 駿哉
(経営学部 2年生)

留学先 カナダ
期間 2019年2月28日
~ 3月30日

キャピラン
つり橋



留学を決めた きっかけは何ですか?

英語留学には元来興味はありましたが、きっかけやタイミングはなかなかつかめずいました。そんなとき、英語を使うプロジェクト研究に参加し、英語村でプレゼンをしたときに担当の職員さんから声をかけていただき、留学へ踏み切りました。

留学期間中どのようなことを して過ごしましたか?

私が参加したプログラムでは、平日は大学の英語を学ぶ施設に通い勉強をしていました。日中は大学で授業を受け、授業が終わるとホストファミリーや友達と話したりどこかへ出かけたりといった生活でした。週末の休みには友達と一緒にカナダの観光地に向かい、ホストファミリーとゆっくり過ごしたりしました。

周囲の人とのコミュニケーションがさっぱりとるように努めれば、自分の好きなように過ごせる時間が多かったように感じます。

留学直前、どのような不安が ありましたか? また、実際に留学を経験して、 その不安は解消されましたか?

多くの人に当てはまるでしょうが、やはり言語力には不安がありました。現地の人と上手にコミュニケーションがとれる自信がなかったのです。その分、言語以外の面で悪い印象を与えてしまわないように、現地でのマナーなどについてはしっかり調べて留学に臨みました。

ほかにも忘れ物はないかとかお金は足りるのかとか、不安に思うことは尽きませんでしたが、現地に到着するとそれどころではなくなりました。授業についていくことやホストファミリーやクラスメイトとコミュニケーションをとることにいっぱいいて、不安を感じる余裕はすぐなくなりました。

コミュニケーションに慣れてきたころには素直に助けを求められることができるようになっていたため、言語力とともに自然と解消されていきました。

留学後、自分の中で 変化したことは何ですか?

一番大きく変わったと感じることは、自分を表現できるようになったことです。失敗や周囲との違いに臆せず、自分の意見を発表することに積極性が出てきたように感じます。

留学に行く前は人前で発言するのが怖くて、恥ずかしくて、人見知りで引っ込み思案なところがありました。しかし、留学中の経験を経て、自分を表現することへの躊躇は少なくなりました。伝えようとしなければ伝わらないという当たり前の事実を痛感できたからこその変化だと思います。

留学を検討している方への メッセージをお願いします。

とにかく行ってみましょう。心の準備ができてから、もう少し英語力がついてから、そんな風に考えて立ち止まっても機を逃すだけです。何一つ不安を抱えず留学に踏み切る人はいません。英語力をつけるために留学に行くのです。現地で十分なコミュニケーションがとれるのなら語学留学に行く必要はありません。不安はあるでしょう。しかし、自身の成長のために思い切って留学に行ってみましょう。周りが応援・サポートしてくれるので大丈夫です。日本に留まっていたはできない経験、得られないものが海を越えた先にはたくさんあります。

勇気を出して、ぜひ留学に臨んでみてください。きっと後悔はしないでしょう。

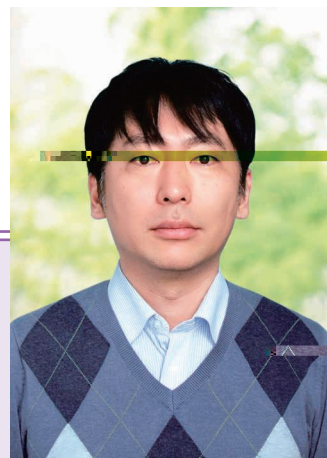
屋外での授業風景



クラスメイト

「学び」は日々進化している

経営学部
豊田 寿行 准教授



2020年といえば、東京オリンピックを思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、教育関係者は「教育改革」が頭に浮かびます。ひとことでこの教育改革を説明することは難しいのですが、簡単にいいますと、学校教育、入試、英語教育の3つが大きく変わります。そこで、来たる教育改革のうちで、学校教育の改革について考えてみたいと思います。

今回の学校教育の改革は「学び」の改革といえます。ここで、「学び」という言葉にどのようなイメージをもちますか？「何を学ぶのか」、「どのように学ぶか」、はたまた「学んだ結果、何が身につくのか」などをイメージすることが多いと思います。これまでの学校教育では「何を学ぶのか」に重きが置かれていました。しかし、「どのように学ぶか」、さらには、「学んだ結果、何が身

につくのか」まで要求しているのが今回の学校教育の改革の特徴のひとつです。

従来型の教育形態である知識伝達型の「講義」は「何を学ぶのか」に特化するものでした。そこで、「どのように学ぶのか」、そして、「学んだ結果、何が身につくのか」に対応するために学習者主体型学習である「アクティブ・ラーニング」が盛んに行われています。アクティブ・ラーニングは一方的に講義を聞くのではなく、学習者がグループで議論したり、プレゼンテーションをしたり、学習者同士で学んだことを共有する学習者の能動的な学びをいいます。アクティブ・ラーニングの導入によって、学習内容の定着率が向上し、獲得した知識や経験を応用する能力が身につくといわれています。

ここでアクティブ・ラーニング、つまり学習者が主体的に学ぶということは革新的な学びの変化ではありません。実は、これまでもずっと行われています。大学でいえば、研究室でのゼミ活動はまさしくアクティブ・ラーニングだといえます。ただ、アクティブ・ラーニングの比重を高めていく必要性を指摘しているのが今回の改革です。教育にたずさわるものとして、教育内容、教育手法等、日々、改善に努め、学生の成長を促進させることが重要です。そのためにも、「学び」の変化への対応が常に必要であり、そして、「学び」は進化し続けなければならないのです。

本年4月に経営学部に着任いたしました。

担当科目は会計学入門、財務会計及び経営分析です。前職は、監査法人で勤務し、上場企業の会計監査を担当していました。生まれは和歌山県で、大阪、ドイツ、東京で勤務し、監査で全国各地の会社を回りました。会計学は、あらゆる分野で必要とされ、社会人として必要な知識です。会計で使用される財務数値は、英語と同じように万国共通言語です。監査法人時代に培った経験を活かして、授業では、会

経営学部 柳 年哉 教授



自然環境を測定しよう

経営学



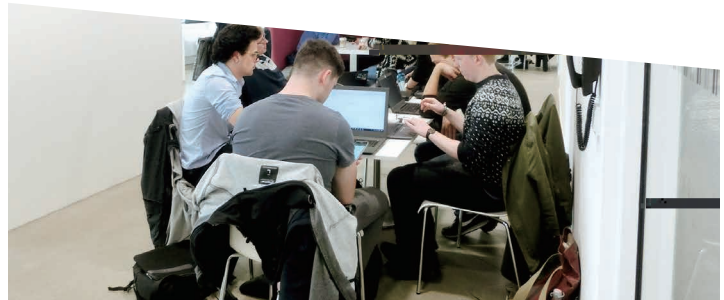
交流プログラム

初!カッセル大学への

本学とカッセル大学は、両大学の教育・研究における学術的・文化的交流の発展を目的として協定書を締結しました。

カッセル大学はドイツのカッセル市に位置し、1927年に創立された歴史ある州立大学で、工学に力を入れています。

まずは、第1回目の研修プログラムを2019年8月10日から13週間行い、本学学生10名が参加します。本研修プログラムは、カッセル大学で、ドイツのツーリズム、産業、再生エネルギーなどのテーマを経営と環境の両側面から英語で学び、専門的な内容を英語で理解し、発信する力を培います。本学で初めてとなる英語中級レベル程度以上(CEFR B1レベル)を対象とした海外短期研修です。今後もドイツの環境と経営の専門分野について英語で学べる研修プログラムを相互協力により実施していく予定です。



カッセル大学キャンパス内の様子

本学の語学留学プログラムは、他にも・・・

アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、韓国、中国の大学への研修も設けています。(短期間で集中的に語学研修と文化体験ができるよう開設しているプログラム)

留学生支援 留学生の親睦会も行いました

今年入学した外国人留学生が早く本学に馴染んで円滑に学生生活を送ることができるよう2019年5月31日に親睦歓迎会を行いました。会には日本人学生、在学外国人留学生及び江崎学長をはじめとする教職員も参加して、お互いの国の文化について話したり、大学や鳥取での生活について質問するなどして、楽しく談笑する姿が見られました。今後もこのような外国人留学生と日本人学生の交流の場などを通じて、互いの文化を理解し合い、国際的に活躍できる人材の育成を目指します。



留学生の親睦歓迎会の様子



プロジェクト名

鳥取県における環境コミュニケーション

本プロジェクト研究では、鳥取県で実施されている環境コミュニケーションを調査・分析することを通じて、環境コミュニケーションとは何かについて多角的に考えていきます。環境コミュニケーションといえば、環境問題を未然に防ぐため、様々な



さじアストロパークにて、星空観察を実体験。

ステークホルダーが行うコミュニケーションを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。本プロジェクト研究の特徴的な点としては、環境コミュニケーションを、「持続可能な社会の実現のために行われる相互的なコミュニケーション」であると捉え直している点があげられます。

学生の皆さんは、私の専門であるグループ・ダイナミクスの研究における方法論や手法、社会心理学における様々なコミュニケーションの捉え方(理論や概念)などについての学術的な内容を最初の数回で簡単

に学びます。その後、皆さんの関心に基づいて、3つのグループに分かれて、研究計画をたてていき、調査を行っていきます。各グループの2年生からリーダーと副リーダーが選ばれ、彼らのリーダーシップのもと、自主的に活動を行っていきます。本プロジェクト研究では、環境社会心理学の入り口に触れていただくとともに、調査活動を通して、2年生はリーダーシップを、1年生は協働のあり方も学んでいきます。

今回のプロジェクト研究では、「観光施策」と昨今話題の「関係人口」を切り口にして、各グループ、調査を進めています。現時点では、さじアストロパークや浦富海岸、砂の美術館、鳥取県庁様などを訪問し、観光の現場の側面とともに行政の側面も含めて、インタビュー調査や現地調査を行っています。次回は本プロジェクト研究参加者全員で大江ノ郷自然牧場に行き、実際に様々な体験をすることで、「関係人口」の観点から、大江ノ郷自然牧場の活動を考察する予定です。



浦富海岸にて、浦富海岸島めぐり遊覧船を実体験。



賀露港にて、賀露港散策を実体験。

プロジェクトアドバイザー 環境学部 甲田紫乃 講師

プロジェクトメンバー 環境学部 1年: 石井秀空、今井麗奈、大野治、鶴岡彩希
2年: 中村千仁、西原綾菜、橋本尚人
経営学部 1年: 賀来明日香、軽尾有紗、大瀧豊、今峰佐紀人
2年: 常田純悟、中島うい、新田空、新美翔之介

【SDGs】

環境学部重田研究室が
鳥根県美郷町及び
株式会社テクノシステムと
包括連携協定を締結しました



2019年4月24日、環境学部重田研究室(准教授 重田祥範)と鳥根県美郷町(町長 嘉戸隆)及び株式会社テクノシステム(代表取締役 日野幹雄)は、相互に有する資源を共有し、相互の発展と地域の活性化を図るためのパートナーシップ協定を締結しました。

今後、重田研究室では、美郷町が防災対策として設置している高密度気象観測システム「POTEKA(ポテカ)」により観測されたデータを用いて雲海の発生を予測し、同町は予測情報を公開し、観光資源として活性化することを目指します。

このほか、ゼミ活動やフィールドワークなどを通じて、農業分野や観光分野等での地域活性化に資する研究を行うなど、気象を活かした持続可能な地域社会形成の取り組みに貢献して行くこととしています。

この取り組みについては、新聞各紙でも大きく取り上げられました。



左から 重田准教授・嘉戸町長・日野社長

2019年度 公立鳥取環境大学 学部・大学院入学式を挙

2019年4月4日(木)とりぎん文化会館梨花ホールにおいて、入学式を挙行了しました。学部生299名(環境学部141名、経営学部

158名)大学院生3名が入学しました。

式典では、学部新入生代表の澤口未羽さんと、大学院新入生代表の稲森涉さんがそれぞれ入学生宣誓を行い、澤口さんは「経営者と利用者が互いに利益を得るだけでなく関わるすべての地域の人々の生活がより豊かになる、地域経営学を身に付けた

は2011年に本学へ着任し、バイオマスエネルギー、再生可能エネルギー等の講義を担当する等、後進の教育に当たるとともに、2018年よりサステナビリティ研究所長を務め、本学の地域貢献活動に尽力されています。



横山伸也サステナビリティ研究所長

公立鳥取環境大学における敷地内禁煙の実施について

学部新入生代表 澤口未羽さん



新入生の皆さん



歓迎セレモニー

2019年春の叙勲を横山伸也サステナビリティ研究所長が受章されました

2019年春の叙勲において、横山伸也サステナビリティ研究所長が瑞宝小綬章を受章されました。謹んでお祝い申し上げます。

横山伸也サステナビリティ研究所長

経営学部・本の紹介

お知らせ

本対策として、本学では
2019年7月1日から

受動喫煙防止
2019

とさせていただきます。ご理解、ご協力をお願いします。

電子タバコ、加熱式タバコも同様です。

campus. No smoking on

大学 公立鳥取環境大学

全面禁煙についての提示

地方創生のための経営学入門

目指せ！活躍の場
中小企業を取り巻く経営環境の中で、改めて知っておきたい経営学知識をわかりやすく解説。

環境学部・本の紹介

環境学部では、高校生はもちろん、一般の方にも、「大学の研究室とはどんなところか、日常どんなことがされているのか?」、「主に研究活動の中で、学生と教員とはどんな接し方をしているのか?」、「環境問題への対応としてどんな研究がなされているのか?」、「本学環境学部はどんな特色をもっているのか、どんなとこ



詳しくは各お問い合わせ先へご連絡ください

公開講座



公開講座 2019

本学では一般の方を対象とした公開講座を実施しています。ぜひ、ご参加ください(要事前申込)。

- 日程：主なスケジュール参照
- 会場：とりぎん文化会館 他

お問い合わせ 企画交流推進課
 TEL 0857-38-6704
 E-mail event@kankyo-u.ac.jp

大学祭

第19回 環謝祭 (大学祭)

アーティストによるコンサートや芸能人によるトークショー、参加団体による出店やユニークなパフォーマンスステージなども予定しています。

- 日程：2019年10月19日(土)・20日(日)
- 会場：公立鳥取環境大学

お問い合わせ 大学祭実行委員会
 E-mail gokusai@kankyo-u.ac.jp
 HP <http://r.goope.jp/kansyasai/>

英語村がInstagramを始めました!主にイベントやアクティビティの様子を投稿します。ぜひフォローしてください!

アカウント名:tues_englishvillage

お問い合わせ 英語村 アカウント
 TEL 0857-38-6830 QRコード
 E-mail village@kankyo-u.ac.jp



TUES

第33号 2019年8月27日発行(年2回)発行
 発行 公立大学法人 公立鳥取環境大学 事務局

〒689-1111 鳥取市若葉台北一丁目1-1 TEL.0857-38-6700 FAX.0857-38-6709
 [公立鳥取環境大学ホームページ] <http://www.kankyo-u.ac.jp/> [E-mail] info@kankyo-u.ac.jp

再生紙を使用しています



ソーシャルメディア運用中!

「公立鳥取環境大学の今」を発信!

TwitterやFacebookページなどで公立鳥取環境大学の最新情報を発信しています。パンフレットや公式ホームページでは紹介しきれないニュースや出来事など「公立鳥取環境大学の今」を発信しています。



ソーシャル・メディア公式アカウント一覧

http://www.kankyo-u.ac.jp/about/social_m/